

「べれにある」の発刊にあたって



北海道における酪農経営は規模拡大や乳牛の泌乳能力向上などを求めて通年舎飼型飼養を志向してきました。しかし、生産調整や乳価の低迷など厳しい経営環境の中で、一層の低コスト・省力化と同時に、家畜糞尿処理のための環境問題、ゆとりある酪農の確立など新たな対応を迫られています。

農業試験場は、地域の多くの農家や、農協、普及所の皆さんとの連携が必要です。

皆さんが、農試に何を求めているか、日常的に理解できていれば、テーマの設定や成果の普及に役立つこととなります。

かつて、天北農試では、現地からの情報を得るため、各地に出向き「移動試験場」を昭和60年から平成3年までに7回行いました。

また、平成4年からは、地域の酪農に係わる問題点の解決に向け、現地で関係者と話し合うために「天北酪農技術懇話会」を設け、本年は3回目が予定されています。

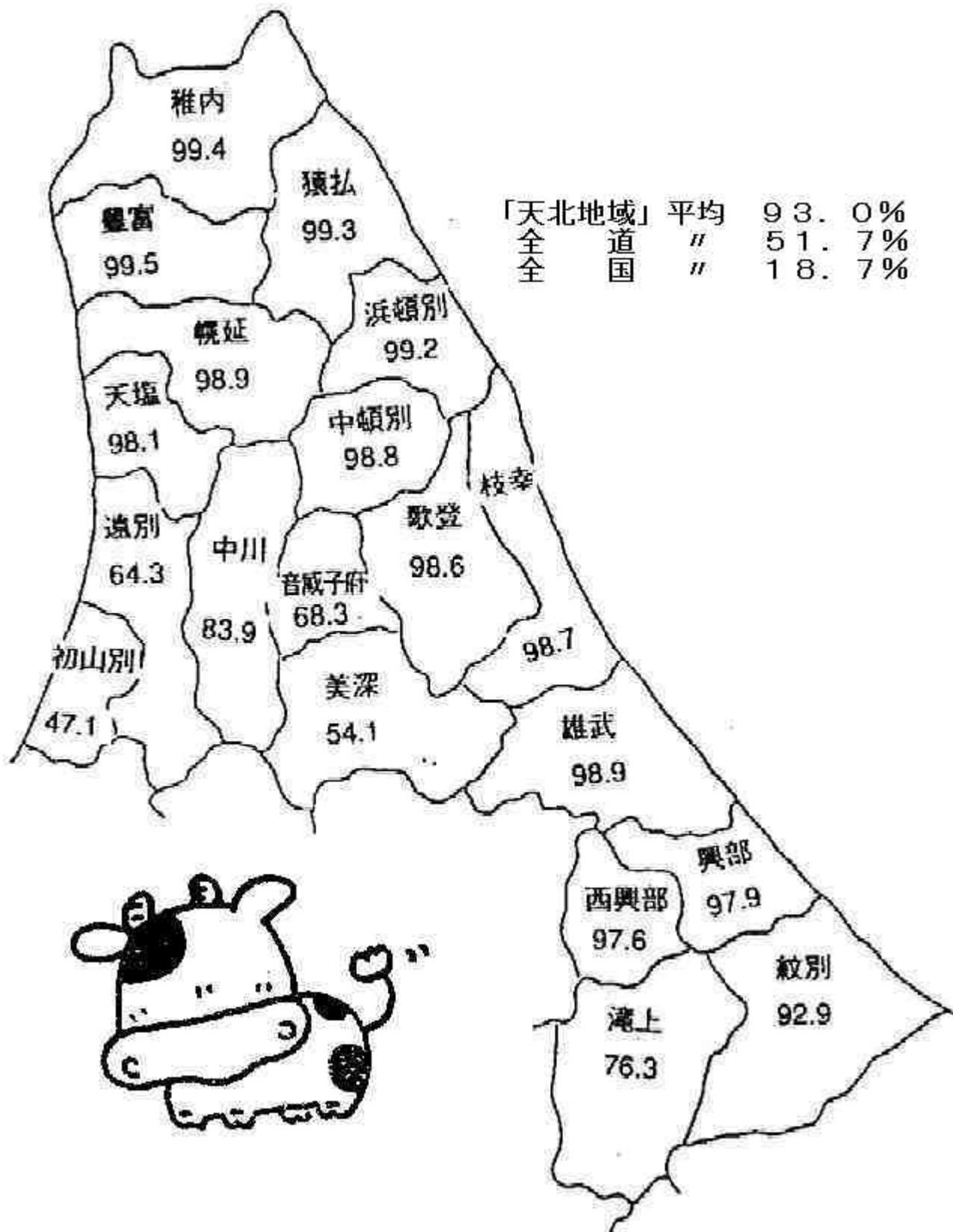
また、今年からは、新たに、技術の普及定着と天北地域の農業情報の伝達を目的に、「べれにある」を、定期的に刊行することにしました。皆さんのご意見やご希望をいただき、愛される天北酪農通信にしたいと考えています。ご協力をお願いします。

「天北酪農地域」とは

「天北地域」という言葉は、よく使われますが、はっきりした定義はありません多くの人のイメージは、「北海道の最北部」といったところでしょうか。

法的に根拠を求めると、「酪農および肉用牛生産の振興に関する法律に基づき集約酪農地域を指定する件」（昭和30年、農林省告示）の中に「天北西紋集約酪農地域」という言葉があります。その市町村と、それぞれの耕地内飼料・草地率を示しました。

「天北地域」全体では実に全耕地の93%が家畜の飼料作物を栽培しており、「天北酪農地域」と呼ぶにふさわしい数字となっています。



「天北酪農地域」の市町村別耕地内飼料・草地率 (%) 平成5年度 農林水産統計

ペレニアルライグラスとは

この草種はし好性が高く、栄養生産性ならびに晩秋の低温生長性など多くの優れた特性をもっています。このため、典型的な放牧用草種として活用でき、集約放牧や秋の放牧延長を可能にします。

しかし、唯一の欠点としては越冬性が劣ることです。そこで、北海道における栽培は冬期間に雪で覆われる道北、道央ならびに道南地域に限定されています。

天北農試の牧草科では、多収で越冬性、永続性、耐病性等を備えた新品種の育成を進めています。

ペレニアルライグラスの特性

草種	利用形態	分けつ力	再生力	季節生産性			嗜好性	冬枯れ抵抗性	栽培適地
				春	夏	秋			
ペレニアルライグラス	放牧	◎	◎	○	○	◎	◎	×	道北、道央、道南
チモシー	採草	○	△	◎	○	△	○	◎	全道
オーチャードグラス	兼用	○	◎	◎	○	○	○	△	道東で不安定

ペレニアルライグラスの利用方法

天北酪農の経営実態をみると、農業所得が低下傾向にあり、このため一層のコスト低減への取組みが望まれます。

天北地域の気象条件は冬期間、雪が多く土壌凍結がないため、集約放牧に最も適した「ペレニアルライグラス」の栽培が可能です。

ペレニアルライグラスは従来から放牧用草種として利用してきたオーチャードグラスよりも家畜生産性が高いので天北酪農の基幹となる飼養管理法に「ペレニアルライグラス」による集約放牧を導入したいものです。なお、この技術を導入するためには牛舎近傍への放牧草地の集積、草地の整備・更新などが必要で、天北酪農の再編成にも結びつく課題です。

ペレニアルライグラスおよびオーチャードグラス放牧草地の家畜生産性 (天北農試：1996年)

草種	開始体重 (kg)	終了体重 (kg)	放牧期間 (日)	日増体重				増体量 (kg/ha)
				春	夏	秋	平均	
ペレニアルライグラス	288	457	164	1.00	0.97	1.15	1.03	737
オーチャードグラス	293	425	165	0.82	0.80	0.80	0.80	635

注) 1. 試験年次 1992年～1993年 2. 春：0～8週、夏：9～16週、秋：17～24週
3. 供試家畜は、ホルスタイン種去勢牛（8.5ヵ月齢、各6頭）を1992年に、アンガス種去勢牛（14ヵ月齢、各5頭）を1993年に、それぞれ利用した。

専技室より

天北専技室は平成4年に新設され、今年で3年目を迎えました。

農家の皆さんと密着して活動している農業改良普及所と連携を取りながら、地域農業の振興のため技術や情報の提供を行っています。

また、天北農業試験場と現場をつなぐ窓口です。

天北農試PR誌「ペれにある」の編集窓口を担当していますので、ご意見、ご要望がありましたら気軽に連絡を下さい。